

屋内曲乗り飛行

(舞台には飛行機が置かれている)

興業師(リースル・カールシュタット) 皆様! 皆様はきょう、有名な名人飛行士、ローレンツ・フィッシャー氏の屋内曲乗り飛行に立ち会われるという滅多にないお楽しみを味わわれます。屋外でのペグー、ウーデットといった人たち風の曲乗り飛行は今日ではもはや珍しくありませんが、ローレンツ・フィッシャー氏の曲乗りはそのようなものとはまったく異なります。氏は「フォッカー」式の電気小型単葉機の発明により、ごく小さなホールにおきまして旋回飛行や急降下を演じるのであります。ただし、大切なお客様方に対しまして、万が一にも事故は起きないとの保証はいたしかねます。すでにハノーファー、ハーナオ、ハレ、オランダ、ハイルブロン、ヘラブルン等々におきまして客演いたしました際に、ローレンツ・フィッシャー氏はメダルを授与されております。

(飛行士(カール・ファレンティン)はメダルを見せる)

興業師 ローレンツ・フィッシャー氏はただちにエンジンを始動させ、演技を開始いたします。次のような演技飛行を行います。

- 一、水平三角旋回をしながらの垂直曲線飛行
- 二、空中円錐中の空気を八割排出する幾何学的八角急降宙返り
おしまいには、時速百五十キロでの身も凍る驚のような飛行
(飛行士はプロペラに寄りかかって、滑って転ぶ。手をどこにおいていいかわからず、ミトンをはめる)

興業師 飛行の間中ずっと、ローレンツ・フィッシャー氏はロンドン歌劇場を無線でとらえますので、お客様方は今晚、ロンドン歌劇場の上演風景をスピーカーからお聞きになれます。ロンドン歌劇場の今夜の演目は『ミユラーとその子供』(原註・エルンスト・ラウパッハ(一七八四〜一八五二)作の民衆劇)です。経験上、また警察からの指示により、お客様方にぜひともお願いいたしますが、飛行の最中は静かに、また不安がらずに席についていらして下さい。それからご婦人のお客様には帽子を脱いで下さいますようお願い申し上げます。それからローレンツ・フィッシャー氏は百から二百マルクの……

(飛行士が興業師の耳に何かささやく)

興業師 ……いえ三百マルクまでもの賞金を、この飛行機でほんのわずかも飛行を試みようとするパイロットの方全員に進呈いたすそうです。さあ、始めましょう。

(飛行士はミトンをはずし、飛行機の中においてあった大ジョッキから飲む)

興業師 何やってるんだ。

飛行士 スポットライトの係はどこだ？

興業師 照明係、来て下さい。ホールを暗くし、電灯をもっと上に上げてください。

飛行士 それから、僕が飛んで行く先を常にライトで照らしてくれ。

(照明係はスポットライトのスイッチを入れる)

飛行士 もっと早く、もっとはつきりと。

興業師 ぎらぎらと、もっと強く。そうです。そら、始動させよう。

飛行士(プロペラを回転させるが、回り出さない) どうしたんだ？

興業師(同じようにやってみるが、回り出さない) どうしたんだ？

飛行士 俺にはわからん。八年前は本当によく動いたんだがな。

(興業師はプロペラをまたも始動させようとするが、やはりうまくいかない)

飛行士 いつも玄関の外に置いといたから、ガキどもがこれをおもちゃにしていたものな。(タイヤの一つにポンプで空気を入れながら照明係を罵る)今からめちやくちやにライトを照らしてやがる。

興業師 どうして自分の飛行機の手入れをしておかないんだ。事前にしておくものだよ。

飛行士 事前には、こいつが動かないって知らなかったんだ。(エンジンルームを開ける)こりゃあ、新しい、聖体拝領用の、いや、堅信礼用の、いや、点

火用のろうそくブラッゲが要るな。

興業師 何がいるんだ？

飛行士 何もいないよ。

興業師(観客に) 少々お待ち下さい。

飛行士 まことに申し訳ありません。市電も時々、動かないことがあります。

ますね。

興業師 あんなに大口上を並べ立てたのに、動かないだなんて。

飛行士 こんなことはこれまでなかった もう一度、回してみてくれ。

(興業師はまた回してみる)

飛行士 あれ、大ナットが一本はずれてるんだ。(叫ぶ)お母さん!

興業師 そんなに大声出しなさんな。工具箱はどこかね?

飛行士 工具箱などないよ。

興業師 そんなはずはない。飛行機の道具入れに入ってるだろう。

飛行士 飛行機に道具入れなんてないもの。

興業師 ああ、何てことだ。(もう一度回してみると、エンジンがかかる。笛を吹く)皆様、ご着席願います。(飛行士に離陸の合図を送る)

支配人(わめきながらバタバタとホールの中を走ってくる) やめる! 飛

ぶな! 止める! だめだ! 止めるんだ! やめるんだ!

興業師 どいて下さい、じゃまです。

飛行士 離陸できないぞ。

支配人 止めなさい。やめなさい。

興業師 何を言ってるんだろ。

(飛行士はまだエンジンを止めようとしなない)

興業師 いい加減にエンジンを止めたまえ。どという事情なのか私にもわからないが。

飛行士 止めましたよ。まだ火花は出てるけど。

支配人 それじゃあ、それを取り出すんだ、火花を。

飛行士 わかった。あんたのせいで俺の手はやけどだぜ。

支配人 何を考えとるんだね、こんなホールの中をガソリンエンジンでもって飛ばうたなんて。正気かね?

飛行士 いや、短気で。

支配人 わしは、危険はまったくくない演し物と思ってたのに、ガソリンエンジンでもって飛ばうっていうんだからな。

飛行士 ええ、ジャガイモサラダでもって飛ぶ訳にはいかんでしょう。

支配人 ガソリンの滴でもこぼれてみなさい。ご婦人方は皆、きれいなドレスを着ておられるんだ。

飛行士 といって、別に危ないことはありませんよ。

支配人 まだへらず口をたたくんだな。

飛行士 そうですよ。

支配人 もしドレスが台無しになったら、賠償するのかね？

飛行士 いいえ。

支配人 それでは、絶対に飛行してはならん。

興業師 何も起きませんよ。ネットを張りますから。ネットを持ってくれ。(誰かがネットを運んでくる) それでは、これをお客様方の頭上に張りましよう。するとお客様方は皆、張り切ります。

飛行士 全体を画鋏で留めてくれ。

支配人 そんなテントウムシを捕まえるようなネットで何をしようって言うんだ。

飛行士 冬にはテントウムシはおりません。

興業師 やったって仕方がないさうだから、はずしてくれたまえ。

支配人 このネットは薄すぎるし、そのうえ目が粗すぎる。これではあなたは通り抜けてしまうだろう。

飛行士 ないよりはましですよ。

支配人 でももしあなたがその重たい飛行機もろともネットを抜けて落下したら、少なくとも十人はおだぶつだぞ。

飛行士 オーバーですよ、十人だなんて。せいぜい、二、三人でとこでしょう。

支配人(興業師に) あなたにも責任がある！ あなたが興業師だろ？

興業師 はあ？

支配人 あんたが興業師だろ？ あんたはわしにこの演し物はまったく危険がないと説明したではないか、これはどうしたことなんだね。すぐに答えたまえ！(飛行士に) あんた、こっちがあなたの興業師だね？

飛行士 こちらですか？ どうぞよろしく！

支配人 こりゃあ、頭がいかれてるな！

飛行士 可愛いそうにそんなんです。一度、プロペラにかすられたことがあって、それ以来、頭がおかしいんですよ。

支配人 二人ともいかれてるんだな。さあ、飛行機を片づけなさい。ここで飛行はできない。舞台から下りなさい。あんたらは、わしらがこの電灯やらシャンデリアを全部めちやめちやにさせるとでも思ってるのかね？ あんたらのためにわしらが牢屋送りになるのを黙って許すとも思ってるのかね？

興業師 今までにだつて入っていたことあるじゃないですか。

支配人 そら、さつさと出ていくんだ。さもないと追い出すぞ。(退場)

興業師 やれやれ思つた通りだ。

飛行士 飛行機の前につつ立つてるだけだなんて。あいつが入ってきた時すぐに、あの男がげんなりしてるなつてわかつたよ。

興業師 どうしようもない。ことによると、とは思つたけれど。

飛行士 思つたと飛んだじゃ、まったく別だ。

興業師 まあ、あの男の言つことも当たっていないこともないよな。ここはやっぱりとにかく狭いもの。この中で飛ぶとしたら、ずいぶんこせこせしたもものになつてたろう。

飛行士 おそろしく狭いよな。いずれにせよ、気分は悪くなつてただらうね。

興業師 それよりも、飛んでいたら、何か起きたかもしれないとも思つしな。

飛行士 そうだな……おそろしく……

興業師 こういうことつてやっぱり外でやるものだよ。ホールではなくて、外の広い所で。十月祭の会場なんかで……

飛行士 そんなこと言つたつて、ここのお客さんたちに今からいつしよに野原へ行つてもらふ訳にはいかないだろう。だから、あんた、お詫びを申し上げてくれよ。手前どもは飛行をお見せしたかつたんですが、支配人がやつて来たつて。

興業師 そんなことは言ふ必要ないよ。みんな聞こえてるもの。

飛行士 ちよつど外に出ていた人もいるかもしれない。

興業師 ご来場のご婦人方

飛行士 単に、お客様と言えはいいさ。

興業師 どう言えはいいくらい心得てるよ。 ご来場のご婦人方

飛行士（エンジンを再び始動させる。飛行機は動き出すがKVはどうにか支えている。興業師はすばやくわきにどく）　むやみに動くな、この馬鹿。捕まえてなかったら、どこかに行っちまっていたところだ。後ろのドアが開いていたら、大変なことになってた。

興業師　ご来場のご婦人方ならびに

（飛行士はまたプロペラを回す）

興業師　何て軽率なことをするんだね。私は飛行機のまん前に立ってるんだぞ。どんな事故が起きるか、考えろよ。　ごめんだね。

飛行士　どういたしまして。

興業師（話そうとするが、振り向いて驚愕する。KVは飛行機をモはや制御できなくなつて、両腕でしがみつき、引っ張られながらピョンピョン跳ねている）後ろで静かにしてくれないと、話ができないだろ。

飛行士　後ろの静けさは自分でどうにかしろよ。

興業師　もう頭に来た。　ご来場のご婦人方ならびに紳士の皆様。私どものやる気はわかっていたただけかと存じます。何が何でも飛行をご覧にいれたかったのですが、支配人から嚴重に禁止を申し渡されてしまいました。切にお詫び申し上げます。お客様方も残念がついていらっしやることでしょうか。

飛行士　みんな残念がつてるさ。

興業師　でも、申しました通り、私めにはどうすることもできないのでございませう。ご来場のお客様方には重ねてお詫び申し上げます。私どもは是非、飛行したかったのですが、許可されなかったのです。

飛行士　許可されるさ。あしたから……

支配人（舞台の後ろから駆けて出て来る）　だめだ。絶対に許可しないで。出て行くんだ！

興業師　また、やって来たな。もう、行こう。

飛行士　そのうちきつと、またこんな演し物を欲しくなるから、見てろよ。よそのホールでも飛行しようとしたんだぞ。それでも禁止されちまったがな。

興業師　興奮するなよ。

飛行士　あんた方は俺たち次第ではないのに、俺たちはあんたら次第ってのは我慢ならねえ。覚えとけ！